

令和7年度藤枝西高等学校第3回学校運営協議会議事録

- 1 日 時 令和8年2月2日（月） 午後2時から4時
2 場 所 藤枝西高等学校 会議室
3 参加者

会 長	鈴木 尚夫	学校の運営に資する活動の経験者
副会長	高橋 等	学識経験者
委 員	木村 功	地域住民
委 員	松本真由美	その他
委 員	福與しほり（書面参加）	保護者
委 員	伊東 邦雄（書面参加）	その他

校長（竹村）、副校長（和田）、教頭（平林）、事務長（新美）、総務・図書課長（小澤）教務・情報課長（平井）、生徒・保健課長（東）、進路・探究（井鍋）

- 4 内 容 司会：副校長（協議の進行は会長）

(1) 校長挨拶

- ・ 今後の公立高校の在り方については、志太地区の高校数を削減する案（9校から最大6校）が示され、3月にグランドデザインが発表される予定。私立高校授業料無償化等の影響で公立高校の入試環境が厳しさを増している現状がある。
- ・ 今後の学校運営に関しては、厳しい予算状況の中でも工夫して、学習環境の確保に努めていく。

(2) 学校自己評価の概要説明（副校長より）

- ・ 生徒の活動と意識の現状：学校行事や部活動には96.8%の生徒が積極的に取り組んでおり、行事を楽しむ姿勢が強く見られる。一方で、進路実現へのチャレンジ（約7割）や国際的視野（約6割）については控えめな数字に留まっており、未知のことへの挑戦を通じてコミュニケーション能力を育成することが今後の課題とされている。
- ・ 教職員の働き方改革：業務時間の縮減を意識して仕事のできた教職員が、昨年度の60%台から81.2%へ大幅に向上した。時間を区切りつつも、生徒と向き合う時間を大切にする意識が定着しつつある。

(3) 学校自己評価に関係した取り組みについて（各分掌より）

ア 生徒・保健課

交通事故の急増が大きな課題となっており、令和7年度（1月末時点）は昨年度の約2.4倍に達している（特に1年生が約6割を占める）。対策として交通安全教室の増回やヘルメット着用の推奨、明るい色の防寒着の着用を促す方針。また、部活動加入率は95.8%（2025年4月時点）と高い水準を維持している。

イ 総務・図書課

保護者への連絡は、C-Learningを活用した情報のデジタル化・ペーパーレス化を推進しているが、情報過多による読み飛ばしの懸念も生じている。また、多様化する保護者ニーズに対し、PTAとの連携を通じて信頼向上を図っている。

ウ 教務・情報課

ICT 活用率は 78.1%で、今後は「分かりやすさ」を追求した効果的な活用を目指す。教育の質向上のため、教員間での相互授業参観の徹底（目標 100%）を重視する。

エ 進路・探求課

進路情報の提供について、生徒の満足度（91.1%）に対し保護者（76.4%）は低く、ニーズの乖離が課題。負担軽減と主体的な学びの支援のため、AI を活用した志望理由書の作成支援や面接練習サービスの導入を検討している。

(4) 学校関係者評価の集約と確定

それぞれの委員（書面参加の委員を含む）より、5つの視点から評価と具体的な提言をしていただき、合議の上学校関係者評価を確定した。

ア 人間性の育成（評価：A）

A,B:「ボイスシャワー」や読書活動への取り組みを評価する。

C:自己評価だけでなく他者からの「相互評価」を取り入れることも生徒の成長実感を得るために有効。

D:行事の前に各々の役割を明確にすること、控えめな生徒への配慮などを継続したい。

イ 学力の定着（評価：A）

A:授業公開での生徒のプレゼンテーション能力を評価する。

B:ICT への過度な依存による基礎力・想像力の低下は懸念される。北欧の事例を参考に、人間が頭と言葉を使う授業とのバランスを重視したい。また「なぜこれを学ぶのか」という意義を明確にした授業づくりを工夫してほしい。

C:他教科の様子や他授業での生徒の反応を知るためにも相互授業参観は重要。1

ウ 進路目標の実現（評価：A）

A:大学進学以外の道（専門学校や短大など）を選ぶ生徒に対する、きめ細かなフォローは必要だ。

B:Z 世代が数年ごとに職を変える時代背景を踏まえ、単なる進学先選びではなく、将来の自己実現に向けた「選択と決定の繰り返し」を支援するキャリア教育が求められる。

C:卒業生などのロールモデルと触れ合う機会を増やし、将来の自己実現に向けたキャリア教育を支援することも必要だ。

エ 信頼される学校（評価：B）

A:生徒自身の意識改善に向けた継続的な指導が求められる。

オ 地域との連携（評価：B）

A:コミュニティスクールとしての活動をさらに広げるため、校内の道場（畳敷きの施設）を地域へ開放し、冬場の運動やコミュニケーションの場として活用するのはどうか。

《総論》

学校の伝統である「自律・敬愛」の校風を維持しつつ、安全管理の徹底と、変化する社会に対応した支援を高度化することが課題。単に点数が取れる「よくできる人」ではなく、「よくできた人」を育てる教育を継続してほしい。